

部局長マニフェスト

都市整備部長マニフェスト(案)

私の思い

都市整備部長
井上 章



都市整備部は、経済の活性化や都市の再生を図るとともに、府民が安全で安心できるまちづくり、魅力的な都市環境の創造を目指し、着実な都市基盤施設の整備と適切な維持管理を推進します。また、地域や企業との協働、既存ストックの活用などをさらに推し進め、“府民や利用者の立場に立ったまちづくり”に取り組みます。

その上で、“現在・将来の「安全・安心を確保」しつつ、「将来に向けた次の一手を打つ」ために、いま、特に何をすべきか”という観点で、以下の重点課題を設定し、積極的に挑戦します。

【重点課題】

都市基盤整備の抜本的な見直し ～現在と将来の大阪を支えるために～
道路整備や治水対策の考え方を抜本的に見直し、更なる選択と集中により事業を推進します。

都市基盤施設の戦略的な維持管理 ～府民の安全・安心を支えるために～
将来世代に負担を先送りしない、“予防保全”の考え方に基づいた維持管理戦略を策定し、橋りょうなどの都市基盤施設の長寿命化を図ります。

大阪の魅力づくり ～府民が実感できるまちづくり～

「水都大阪」や「みどりの風を感じるまち」などの施策を行い、府民が実感する“水都”や“みどり”といった大阪の魅力を創出します。

関西圏の成長を支える都市基盤整備 ～都市間競争を勝ち抜くために～

国際的な都市間競争を勝ち抜くために、大阪が周辺都市や関係機関をリードし、関西圏の成長を支える物流・交通ネットワーク機能の強化に取り組みます。

都市整備部の施策概要

都市の再生や安全で安心できる都市基盤の整備を実施するとともに、適切かつ計画的に維持管理を行っています。

また、環境保全や景観形成などの観点から、都市環境の向上に取り組み、府民や利用者の立場に立った魅力的なまちづくりを推進しています。

安全で安心できるまちづくり

治水対策・土砂災害対策

【重点課題】

都市基盤整備の
抜本的な見直し

適切な維持管理

【重点課題】

都市基盤施設の
戦略的な維持管理

交通安全対策・バリアフリー化
防災と危機管理

経済の活性化を先導する都市の再生

都市計画の決定・変更
道路の整備

【重点課題】

都市基盤整備の
抜本的な見直し

広域交通ネットワークの形成
港湾の振興

【重点課題】

関西圏の成長を支
える都市基盤整備

慢性的な交通渋滞の解消
市街地整備の推進

魅力的なまちづくり

環境の保全・景観の形成
流域下水道の整備
公園の整備・緑化の推進

【重点課題】

大阪の魅力づくり

府民協働
大阪ミュージアム構想の推進

都市基盤整備の抜本的な見直し

何を目指すのか、目指すべき方向は？

戦略課題の
目標

厳しい財政制約が続く中、即効性や実現可能性等の観点から、道路整備や治水対策の考え方を抜本的に見直し、更なる選択と集中による事業推進を図ります。

その実現に向けて、今年度何をするのか？

施策推進上の
目標

道路整備の見直し

道路ネットワークの将来像を見据えながら、今後の道路整備計画の策定に取組みます。

(取組内容) 6月 今後の道路整備方針案を策定

秋頃 10ヵ年計画を策定

将来の必要性、実現性を考慮して、まちづくりの主体である市町村と連携し、府民の理解のもと未着手である道路の都市計画について、見直しを進めます。

(取組内容) 基本方針の概略等について、適宜都市計画審議会で報告

H23.3月 見直しの基本方針策定

(平成23～25年度 都市計画変更)

治水対策および土砂災害対策の見直し(危機管理室との連携)

人命を守ることを最優先とするのはこれまでと同様ですが、これまででは府下一律に定めていた治水目標を河川氾濫や浸水の程度により判定した危険度の大きさに応じて各河川ごとに定めることとします。

また、被害情報を府民と共有し、「流出抑制」「治水施設の保全・整備」「耐水型都市づくり」「情報収集・避難」を組み合わせ、行政が情報や施設整備を提供するだけでなく府民と一体となった治水対策を目指します。

(取組内容)

治水対策 5月 「今後の治水対策の進め方」を策定

12月 事業実施中河川(10河川程度)の治水目標を見直し、あわせて10ヵ年計画を策定

(平成22年～24年度 治水対策を必要とする全河川の目標決定)

土砂災害対策 9月 「今後の土砂災害対策の進め方」を策定

12月 10ヵ年計画の策定

(ソフト対策として「法による危険区域の指定」、ハード対策として「施設整備の重点化」)

避難体制の構築 下半期～ 避難体制の強化を推進するために、簡易型図上訓練を実施するなど

地元自治会や自主防災組織等の住民組織との連携を促進

その取組みにより、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

施策の進捗状況に応じ、業績目標を設定します。

(例) 道路整備、治水対策、土砂災害対策において、今後10ヵ年(H23～32)で集中投資する箇所数 等

都市計画道路において、今後3ヵ年(H23～25)で廃止、又は変更する対象路線数 等

アウトカム

都市基盤整備を抜本的に見直す取組みに対する府民の評価を高めます。

今年度、調査を実施し、目標値を設定します。

都市基盤施設の戦略的な維持管理

何を目指すのか、目指すべき方向は？

戦略課題の
目標

将来世代に既存の都市基盤施設を良好な状態で引継ぐため、「都市基盤施設中期保全計画(案)」(平成19年度策定)を見直し、「維持管理の戦略」を策定することにより、道路や河川などの都市基盤施設の長寿命化、ライフサイクルコストの抑制など“予防保全”の強化を図ります。

その実現に向けて、今年度何をするのか？

施策推進上の
目標

中期保全計画の見直し改正

高度成長期に整備した道路や河川など多くの都市基盤施設が、今後一斉に更新時期を迎えることから、計画的に効率よく補修・更新をしなければなりません。このため施設の長寿命化、将来負担の平準化及び、ライフサイクルコストの低減を図るため、“予防保全”を取り入れた中期保全計画(H20～29)をH19年度に策定していましたが、H20からの財政再建プログラムにより、計画的な実施を見送っていました。この度、集中改革期間が終了することから、年度末までにH23からの10ヵ年にかかる中期保全計画について見直し改正を行います。

危機的な財政状況を踏まえ、除草や清掃など環境対策につきましては、府民の皆様にご協力を願います。

必要な財源確保策の提案

都市基盤施設の建設投資と補修更新にかかる経費について、これからの中長期間におけるトータルのマネジメントを行うことにより、年度末までに必要な財源確保の方策を提案します。

予防保全の着実な実施

職員による日常点検や専門業者による定期点検などを確実にを行い、施設の老朽度・損傷度を的確に把握する取組みを継続しながら、今年度は優先順位の高い国道176号神田高架橋など19橋、平野川排水機場について、予防保全の取組みを着実に進めます。

その取組みにより、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

今年度、調査を実施し、目標値を設定します。

(例) 中期保全計画において、今後10ヵ年(H23～32)で、予防保全を実施する橋りょう及び河川設備(ポンプ場、水門など)の箇所数

アウトカム

今年度、調査を実施し、目標値を設定します。

都市基盤施設の維持管理に関する取組みに対する府民の評価を高めます。

大阪の魅力づくり

何を目指すのか、目指すべき方向は？

戦略課題
の目標

府民が実感できる大阪の魅力づくりを目指して、インパクトのある施策として、「水都大阪」の再生や、「みどりの風を感じるまちづくり」について、府民の目線に立った取り組みを進めます。

その実現に向けて、今年度何をするのか？

施策推進上の目標

より一層の魅力と賑わいに満ちた「水都大阪」再生に向けた取り組みの推進（府民文化部と連携）

「水都大阪」の再生に向け、水辺の賑わい施設等の整備を推進します。

（取組内容）6月 南天満公園のライトアップの実施

8月 中之島バンクスのランドオープン

12月 堂島川右岸（中之島バンクス前）のライトアップの実施

H23.3月 大川毛馬桜ノ宮公園「大阪ふれあいの水辺」の基盤整備・堂島川右岸の緑化
木津川ウォールペイントと連携した環境整備の実施

水の回廊につながる寝屋川流域の水質改善を図り、水都大阪に相応しいものとします。

（取組内容）下水道高度処理の推進

9月 なわて水みらいセンターの供用開始（処理能力3.8万^m³/日・処理水質：BOD2mg/）

11月 竜華水みらいセンターの供用開始（処理能力6.9万^m³/日・処理水質：BOD2mg/）

BOD：河川等の水の汚れの度合いを示す指標。この数値が大きいほど水中の有機汚濁物の量が多い。
合流式下水道の改善対策の実施

浚渫や導水施設整備などの河川浄化事業の推進

「みどりの風を感じる大都市」の実現に向けた取り組み（環境農林水産部と連携）

特に緑が少ない府中央部の東西軸を中心に、道路、河川等の公共空間の緑化を進めるとともに、道路照明のLED化や雨水利用などのエコ環境施策を推進します。

（取組内容）H23.3月 主要路線等の緑化（国道308号、中央環状線、堂島川 等）

道路照明をLED化（国道308号）

府民や企業と連携し、公共空間に隣接した民有地の活用によるセミパブリック空間の創出や新たなみどり空間創出のための仕組みづくりなど、総合的なみどり施策を推進します。

（取組内容）下半期 「みどりの風促進区域」の制度創設、第1次指定

H23.3月 セミパブリック空間の創出（大阪港八尾線 等）

その取り組みにより、何をどのような状態にするのか？

アウトプット

より一層の魅力と賑わいに満ちた「水都大阪」再生に向けた取り組みの推進

寝屋川流域の水質について、全基準点で環境基準を達成します。

（H20）16箇所中13箇所達成 （H23）16箇所全て達成

みどりの軸線形成のため、公共施設の緑化をはじめとした効果的なみどり空間を創出

【府域の緑地面積を4割以上確保、市街地の緑被率20%を目標（H37年度）】

シンボルとなる箇所（国道308号）において、緑の量を倍増させます。

水都大阪の再生にむけ、堂島川において、まとまったみどり空間を創出します。

セミパブリック空間を3箇所創出します。

H24までに市街地の緑被率16%を目指します。（H14（13.9%）より1,800ha増）

緑被率：樹林・樹木・草地等で被われた面積の割合

アウトカム

大阪の魅力の向上を図ります。

「まちの中に交流や憩いの場など様々な魅力ある空間が生まれている」と感じる

府民の割合： 34% 60%

「水都」と言えば「大阪」と考えている府民の割合： 46.7% 70%

みどりの風を感じる大都市の実現を図ります。

みどりがあると感じる府民の割合： 50% 55%[H24]（80%[H37]）

みどりに触れた府民の割合： 40% 45%[H24]（80%[H37]）

関西圏の成長を支える都市基盤整備

何を目指すのか、目指すべき方向は？

戦略課題
の目標

大阪・関西が国際競争を勝ち抜くためには、阪神港と関空の国際ハブ化、更にはそれらと都市圏の高速道路が一体となった物流・交通ネットワークの強化が必要です。利用者の視点に立った都市圏高速道路の料金体系を構築し、一体的な運営を目指すとともに、国土軸とベイエリア・関空との連携強化を積極的に推進します。

その実現に向けて、今年度何をするのか？



施策推進上の目標

高速ネットワークの充実に向けた取組み

都市圏の高速道路や有料道路等について、「地域主権」の観点から、地域による「ガバナンス」と「マネジメント」のもと、地域の実情を踏まえた料金設定やミッシングリンクの整備・維持管理を行う新たな枠組みの実現を目指します。(ハイウェイ・オーソリティ構想)
 (取組内容) 5月 本構想実現に向け、関係府県、政令市で協議会を立ち上げ
 6月～ 国の「新成長戦略」、さらに今後、国において検討される高速道路政策に対し、本構想実現を提案
 H23.3月 統一料金の実現を国の高速道路政策に位置づけ
 我が国の大動脈である国土軸の強化を図るため、新名神高速道路の未着工区間の早期事業化に向け、第二京阪供用に伴う周辺交通状況の変化を踏まえ、積極的に国へ働きかけます。

阪神港の国際競争力強化に向けた取組み

釜山港等に奪われている西日本の貨物を取り戻し、基幹航路の維持拡充に向け、関係者(大阪府、兵庫県、大阪市、神戸市ほか)が連携して内航フィーダーの充実・強化に関する支援制度を国へ働きかけます。
 (取組内容) 5月 阪神港の国際コンテナ戦略港湾の選定に向け国に働きかけ
 国の「新成長戦略」に当該支援制度の創設を提案

なにわ筋線の具体化に向けた取組み

関空へのアクセス向上に寄与するなにわ筋線の具体化に向けた取組みを推進します。
 (取組内容) 事業効果、採算性等を見極めるための都市鉄道調査の促進、並びに実現に向けた整備スキームの具体化に関する府の案のとりまとめ

その取組みにより、何をどのような状態にするのか？

アウト
プット

都市圏高速道路等の統一料金の実現を国の高速道路政策に位置づけ
 阪神港の国際コンテナ戦略港湾の選定及び内航フィーダーの充実・強化に関する支援制度の創設
 なにわ筋線の実現に向けた整備スキームの具体化に関する府の案のとりまとめ

アウトカム

利用しやすい高速道路料金体系の構築など、関西圏において物流・交通ネットワークを強化することに関する府民の評価・関心度を高めます。

今年度、調査を実施し、目標値を設定します。